

先進地調査等報告書

令和6年2月29日

天童市議会議長様

会派名 無会派

代表者氏名 横山 愛

下記により、会派において調査（視察）が終了したので報告します。

記

期 間	令和6年2月7日（水）から 令和6年2月8日（木）まで
調査（視察）先 調査項目	○茨城県境町 バスの自動運転移動サービス視察 ○茨城県つくば市藤本 独立行政法人農研機構 最先端スマート農業の研究施設視察
調査（視察）目的	公共交通機関の自動化により、コンパクトシティの実現や人やモノの流れの活性化を目指している先進地域を視察し、本市において取り組みそうな部分を探る。 これからの農業に欠かせないものとなるスマート農業の最先端研究を視察することで、本市の取り組みにいかす。
市 政 と の 関 連 性	境町は本市と同様に自動車が地域住民の交通手段を支えている町であり、住民の高齢化が進んでも自動車を利用しないと移動手段がなく、高齢者もなかなか免許返納ができないという事情を抱えている。 境町は自動運転バスを導入し4年が経過し、新たな課題も出てきていることを想定し、その課題や問題点もふまえることで、これからの本市にも参考になると考える。 農研機構では、機械化が難しいとされる果樹の収穫作業の負担軽減などの研究をおこなっており、超省力栽培を可能とする技術を視察することで、農業産出額における果樹の占める割合が50%以上であること、農業人口の減少と高齢化など課題を抱えるの本市においての果樹栽培省力化の参考とする。
調査（視察）内容	1 自動運転バスを活用したまちづくりについて 境町の鉄道がない、公共交通が脆弱で、高齢者が免許返納できない、若者が東京に行きづらいといった課題解決のために全国発の自動運転バスを導入。無料で運行され、高齢者の足となるのはもちろんのこと、小学生の通

	<p>学、習い事などの送迎の役割も兼ねている。ふるさと納税と補助金を活用しており、町の持ち出しはゼロになる境町モデルによる運営方式となっていた。公道を走っているものの、これまで事故は1件も発生していない。5年後には「誰もが生活の足に困らない町」を目指している。</p> <p>また境町では、ふるさと納税59億円を突破し、定住促進戸建て住宅事業、ホッケーやBMX、人口サーフィン施設などスポーツにも力をいれている。ALTを20人採用するなど、全ての子供が英語を話せる町として英語教育、英検取得などの子育て支援もしている。地域を担う新たな人づくりとして町役場の組織改革、産官学連携、専門知識導入、プロフェッショナル職員育成のために様々な施策をおこなっていた。</p> <p>2 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 視察</p> <p>世界人口の増加、食料自給率、農業従事者の高齢化、肥料価格高騰、輸入穀物価格の高騰、地球温暖化、豪雨災害の激甚化、家畜感染症リスク、食品ロスの問題など、現代の農業を取り巻くあらゆる問題に対処するため、様々な研究。開発をおこなっていた。</p> <p>スマート農業実証プロジェクトの推進をおこなっており、みどり戦略・スマート農業推進室を組織し、技術開発から実証実装までを一貫して推進する体制を整備している。栽培のデータ収集、解析で生産性向上、コスト低減、農家所得増加を目指している。</p> <p>東北地域では「東北タマネギプラットフォーム」を設立。農研機構の技術で東北地域のタマネギ生産を拡大、夏季収穫による国産周年供給を実現。専門家と生産者がネットワークでつながり、遠隔で支援を行える体制を構築している。</p> <p>実際にモモの収穫を機械化できるように樹形をV字型にした樹園地を視察。</p>	
<p>市 政 の 課 題 へ の 参 考 等</p>	<p>1 茨城県境町 バスの自動運転移動サービス視察</p> <p>ふるさと納税と補助金を活用しており、町の持ち出しはゼロになる境町モデルによる運営方式となっていた。本市においてもスクールバスが必要な地域や声があることなどから、導入を提案したい。</p> <p>2 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 視察</p> <p>果樹における作業性の良い樹形など、導入可能なものもあったので、提案していきたい。</p>	
<p>参加者の感想等</p>	<p>参加議員氏名</p>	<p>感 想 等</p>